



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会

10月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2014年(平成26年) 10月1日(水)

NO. 158

希望の年度初め

文化部 矢口裕司

朝の通勤がとても楽になりました。帰国して感じたことは、秋へ一歩一歩近づいてきたということ。これからますます空高くなってくるのでしようね。ロスアンゼルスのもいっつの間にか秋雲になっていました。

今回の訪米は前回の七月から二ヶ月も経たないうちにお伺いできることが決定し、皆さんと再会する嬉しい驚きの出張となりました。あまりに日が経っていないので、「またか」と思った方ももしかしたらいたかも知れませんが、私をあたたく迎えていただき感謝でいっぱいです。

五日金曜に便の遅れもなくロスアンゼルス国際空港に無事到着し、滝川さん、グレースさんが出迎えてくださいました。レドンドビーチのレストランで食事をした後、Costcoに買い物に行き、アメリカの規模の大きさに改めて驚かされました。ジャガイモの一袋の量を見ても、パーティーやBBQをするアメリカならではの消費力を感しました。その日の夜には、飯田さんを中心として発足した倫理ビ

ネスネットワークに参加させていただき、文化活動を通しての倫理の学びを深めました。これからさらに経営者の枠を広げ、倫理の輪が広がっていくことを願っています。

六日土曜には午前を秋津書道、午後はしきなみ短歌と一日文化の学びをいたしました。中でも秋津賞の特選に草野律子さんが選ばれ、来年の『秋津書道』誌の表紙を飾ることが決定いたしました。遠く離れたロスの地から、秋津・しきなみを通して皆さんの努力を感じられるのはとても嬉しいことです。

七日日曜には今回の一番の行事である二〇一五年度辞令交付式が執り行われました。皆さんへ辞令に対する心構えをお伝えさせていただきましたが、いつも謙虚に朗らかな心を持つことよって、必ず良い方向に向かっていくと信じます。丸山先生の名代として、このすばらしい倫理をお伝え出来ることに自信と確信を持って、確実に堅実に倫理の輪を拡げてまいります。

モーニングミクサーが終わった後は、門園さん宅のお庭でBBQを開催し、皆さんで

楽しい時間を過ごすことが出来ました。門園さん、お世話になりました。尾崎さんがずっと焼き場を担当してください、焼きたてのものが食べられました。皆さんの「おもてなし」に感謝いたします。蒸し暑さの続く中での開催となりましたが、笑顔の皆さんにパワーをいただいで、その暑さを忘れるほどでした。何名かが特別に作った短歌の鑑賞もとても面白かったですね。倫理運動と文化活動の大切さを改めて感じた一瞬でした。二〇一五年度が始まりました。これからさらに南カリフォルニア倫理の会が一層の発展をしていくように祈念しています。それでは、また来年お会いする日まで。ごきげんよう。



二〇一五年度倫理研究所 USA辞令交付式

九月七日(日) 米国倫理研究所において平成二十七年役員辞令交付式が執り行われた。

本部より矢口裕司文化部専任研究員のご出席をいただきそれぞれの新役員に、丸山敏秋理事長の辞令が矢口研究員より手渡された。橋勝雄会長の二年目続投への抱負の言葉があり尾崎普及部長、飯田事務局長、前田経理部長らの力強い決意表明があった。

矢口専任研究員から、明朗・喜動・愛和をモットーに、すなおな心持ちで取り組んでもらい、各人が会の発展のために尽力してほしいと、激励のお言葉を頂き辞令交付式は、滞りなく終了した。

(出席者二十八名)
(川田末子記)



二〇一五年度役員

本部

教育企画部部长

藤崎正剛

文化部専任研究員

矢口裕司

倫理USA

President 橋勝雄

Secretary 川田末子

Treasurer 前田グレース

Director 滝川政和

大西健造

川田薫

門園美枝子

大島藤江

土佐美代子

飯田隆

南カリフォルニア

倫理の会

会長 橋勝雄

事務局長 飯田隆

会員係り 尾崎よしみ

会場係り 藤間富士子

図書・誌友係り 梅本和子

書記 川田薫

普及部長 尾崎勝宏

班長一班 伊澤潤子

班長二班 大島藤江

班長三班 大竹信雄

班長四班 矢崎由起子

班長五班 与那覇寛雄

広報係り ホン史子

経理部長 前田グレース

経理副部長 氏家正子

しきなみ短歌会

チーフ 草野律子

秋津書道会

チーフ 長谷川伝子

倫理ビジネスネットワーク

会長 飯田隆

副会長 佐藤昭

書記 川田末子

会計 土佐美代子

ビジネスセミナー

九月五日（金）午後六時三十分から九時まで、矢口裕司専任研究員を迎えて開かれました。

最初はみんなでお弁当を食べながら懇親、その後も「ロの字」になつての形式だったので、ざっくりばらんに学ぶことが出来ましたし、質問もたくさんでて、意義のある集いでした。

矢口先生の講義は「ビジネスに生かす文化活動」がテーマでした。経営者自らが純粹倫理を学ぶ

ことによつて、真の倫理経営をしていこうとする学びの場として文化活動があること。空所をもつことや生活の浄化、個性の発揚など、文化活動の目的と意義を秋津書道、しきなみ短歌に添つて講義されました。特に「空所」の中の「静動一致」についてはとても参考になりました。今後も同じような形式で、進めていきたいと考えています。

(参加者八名)

(飯田隆記)

秋津書道会

九月六日（土）午前十時〜十二時、矢口裕司専任研究員を向かえて秋津書道クラスを行なった。書道箴言を昌和した後、矢口裕司専任研究員より滝川歌子秋津書道講師への2015年度の辞令交付が行われた。続いて草野律子の名が呼ばれ、先月末に提出した調和体の書道作品が第八回・秋津賞の特選に入賞したことが知らされた。

講話では、秋津書道の目指すところは、美しい綺麗な文字を書く事だけに留まらず、自分の言葉を自分の書で書き、自分が

変わり、書が周りの人の心までを変えてゆく。そして皆の心を豊かにしてゆく処にあると話された。実習では先ず、競書の練習を各自で行った。先生が夫々の席へ立ち回り、お手本を書いたり手直しをしながら、秋津書道特有の筆の起筆と収筆を分かりやすく説かれ、初心者の方にも喜ばれた。

最後に調和体で「自分の言葉を自分の書で書きましょう」と、半分に切った半折が一枚ずつ配られると、参加者は困った顔。そこでヒントが与えられ、皆の顔にやる気が満ちる。出来上がった作品を並べてみると、普段言えない言葉が綴られており、会員は互いの書を褒め合い、心が和んだ。作品は各自持ち帰った。何気なく置かれた書を、家族の人たちが目にして何か変化はあったでしょうか？

(草野律子記)

(参加者二十五名)

しきなみ短歌会

九月六日 (土) 午後一時半より

倫理オフィスにおいて、日本より矢口裕司専任研究員をお迎えし、第二百四十五回短歌会

が行われました。今月より入会された森田のりえさん、尾崎よしみさん、与那覇寛雄さんのお三人も参加下さり、松永典子さんの司会、草野律子さんの初めの言葉、そして矢口専任研究員の講話と続きました。

矢口専任研究員は初めに、日本では原則として青泉集、飛雲集まで担当講師より添削を受けることが出来るが、真砂集より上は添削をしないと云われ、外国の会員は例外として添削を認めて頂いているとの事、有難いことと感謝の気持ちで矢口裕司専任研究員のお話を拝聴しました。その後詠草朗詠、高点歌発表、合評、講評、引き続き作者の作意発表となりました。

その中で矢口裕司専任研究員より短歌の一句一句に丁寧な指導を頂きました。

・ 定型を守るために古語を入れて詠む。

・ 「から」は古語「ゆ」を使い定型とする。

・ 後悔先に立たずは諺で、強調したい言葉なので「」を入れる。

・ 中途半端な言い回し方をせず必ずどこかに終止形をいれる。

・ 香りも高く・・・の「も」は助詞で並列の意味を表す。助詞を効果的に使うこと、等々指導を頂いた。

高点歌 尾崎よしみさん
レシート裏に短歌を覚え書き
今の気持をわすれないように

飯田隆さんが高点歌を詩吟調で見事に朗詠された。和やかで、笑いの絶えない歌会、でも色々質問の出した活気のある充実した短歌会でした。

(出席者十七名)
(梅本和子記)

朝の集い

九月七日 (日) 午前十時半より

矢口裕司文化部専任研究員をお迎えしてモーニングミクサーが開かれました。三人が実践報告をしました。川田末子さんの、慌てたこととの失敗には、倫理を学ぶことで「気づき」のアンテナ

ナが張られること、土佐美代子さん経営のレストランでの出来事には、息子さんの対応の良さには日本人の謙虚さが出ていと思う、また氏家正子さんのお孫さんのことでは、子供は、親を見て育っているのが謙虚な気持ちをお互いに持つ事が大事ですと話され、第六条「子女名優」の講話に入られました。

親子というものは、全てが似ていて、自分の行動というものも、自分の子供が全てをあらわしてくる。最近では、日本の未来を担う子供が授業中でも騒がしく立ち歩いたり、電車に乗っていてもうるさくしています。これを親が注意もせず、下を向いてスマートフォンなどをして自分の世界に入り込んでいるのです。

昔の日本は、間違った事をしている人と近所の人からも叱られていました。矢口先生も五歳になるまでに教えないといけない、小さいときは親からよく叱られていたそうで、その当時、厳しく叱る父親が怖かったそうです。しかし、母親は

父にストップをかける役割でした。

人を育てていくのは、教育で、その第一は、家庭であります。政府は民間には入っていけないので、教育創生フォーラムなどを行なっている倫理研究所の役割はとても重要なのです。

親たちがいくらうわべだけを飾っていても子ども達は、事実を表します。家庭がしっかりしていれば、子ども達が代弁してくれまします。子ども達は、生命のバトンランナーであります。インターネット、生まれる前の記憶というのを見てみますと、子ども達は、親を選んで生まれてくるという事があるようです。そのことを踏まえて子ども達は自分たちの所にやってきてくれるんです。人生八十、九十年を精一杯生かさせてもらおうんです。そして親は、しっかり子ども達を愛ではぐくみ、生命を受け継いで行って貰うのです。

矢口先生は、みんなに的確なアドバイスを与えてくださりとても充実した朝の集いとなりました。ありがとうございました。

(参加者三十名)
(尾崎勝宏記)

おめでとつていいます

『しきなみ』九月号

群蛮集 (西東京・海外)

入選 ホン史子

若き木の果樹園全て立ち枯れて加州の水涸

れ目のあたり見る

真砂集 (西東京・海外)

一席 摺木洋子

コヨーテと目と目が合いて凍りつき我は木

となり無色となりぬ

やせ細り毛なみの悪きコヨーテは我を横切

り茂みに消える

【評】犬でさえ目が合うと恐いのには野生の動物コヨーテである。辞典によると肉食でオオカミに似るとある。しかし作者は自分を消す術を知っている。事なきを得た。サスペンスのような二首。

『秋津書道』九月号

競書

五席 咲田静子 高等部 (東京)

八席 梅本豊造 々々

入選 堀井幸江 々々

入選 前田グレース 一般部 (東京) 行書

入選 脇山由希 一般部 (東京) 行書

入選 草野律子 一般部 (東京) 行書

入選 高田弓子 一般部 (東京) 楷書

懇親会

九月七日(日) 辞令交付式、朝の集

いの後門園美枝子理事宅にて 矢口裕

司専任研究員を交えてBBQ懇親会

が行われました。BBQ日和に恵まれ

たカンカン照りの中、てんこ盛りの材

料を焼きながら食べる時間は、笑いあ

りお話が加わって盛り上がり、最後は

第二回目となったしきなみ意外の会員

から募られた短歌の一首を「この道」

のメロデーで皆さんで歌いお開きとな

りました。

エビチキン肉に野菜と次々と幸せ味に

煙和えゆく

(出席者二十七名)

(氏家正子記)

しきなみ短歌

レシート裏に短歌を覚え書き今の気持ち

をわすれないように 尾崎よしみ

学校の帰りに手と手を合わせたうたきの

神に祈りし幼な日

与那覇寛雄

(うたきの神-宮古島の御嶽神)

旅終えて戻れば赤き百日紅今をさかりと窓

越しに咲く

筆先ゆ落した墨のにしみゆく短歌の文字に

深み添えつつ

森田のりえ

草野律子

縁葉の陰に隠れて保護色の南瓜の実る文月の朝

摺木洋子

大木に暑さしのぎに駆け寄れば無数(あまた)

聞こえるせみの鳴き声 松元依子

「後悔先に立たず」の諺が母につくせぬ我が身を

せめる 滝川歌子

しいたけや旬のたけのこ柔らかし香りの高く野

菜の煮込み 奥本洋子

真夏日の気怠き午後の空間を切り裂くようにサ

イレん響く 杉野和子

「アメリカから親子で来た」と喜ぶ姉ホツと安堵

す認知症状 長谷川公子

好きだった花を枯らして何年目その芽がしっか

り大地に立ってる 塩出笑子

ゴツゴツといかつい容姿とそこにがみ全国区と

なり食卓にぎわす 伊澤潤子

歌子さんの三十年(みとせ)の重さかみしめる続

ける力と広げる力 飯田隆

孫たちは水てっぽうを持ち泳ぎ互いにかげ合う

浮き沈みして 梅本豊造

あれやこれなすこと多き日々なれど孫の笑顔に

吾の心澄む 梅本和子

住み馴れて三十余年は利那のごとし花火燃えつ

つ独立祭暮れる 門園美枝子

幸せな孫のユージとガザの子が育つ世界の平和

を願う ホン史子

西寄りの太陽我には見えねども芭蕉の葉先にキ

ラリと光る 松永典子

汗滾(たぎ)る火照りを冷ますウォーターショー

眼前に一つ虹の出でくる 矢口裕司